

世田谷区の生成AI 活用のこれから

世田谷区では、生成AI基盤を職員が内製し、職員が気軽に利用できる環境を整えて利用してきました。この間、生成AI関連サービスは急速に進化しているため、内製した基盤で行うこと、外部のサービスを活用して行うこと等を考えながら、効率化を継続していきます。

生成AIの頭脳（LLM）や処理能力の進化

LLMと呼ばれる生成AIの頭脳は急速に進化し、新しいモデルが次々とリリースされています。とてもよく考え、しっかりとまとめた文章を作成したり、人間から与えられたタスクを分析し、必要なものを自ら判断し、連携するサービスを駆使して自律的に実行する機能（AIエージェント）などが、様々なところで活用されはじめるようになりました。

Point! 大事なものは使い分け！

内製基盤と外部サービス利用 それぞれの特徴

内製

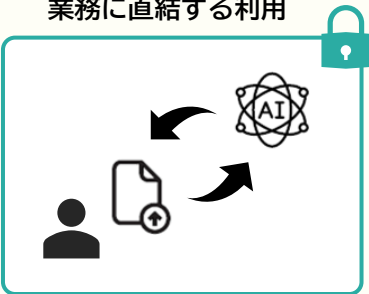
- ✓ Teams（チャットツール）から気軽に利用が可能
- ✓ 入力したデータは区の中で管理される（安全）
- ✓ 機密性の高いデータの利用可

外部

- ✓ 画像、動画、スライド資料など、文章以外の生成
- ✓ 入力したデータはサービス業者に一時渡る（要ルール）
- ✓ 最新機能がすぐに利用可

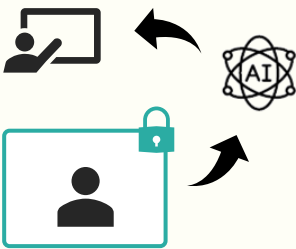
生成AIを活用するシーンや、取り扱う情報の内容によって、どんなサービスを活用するのが良いかを考えて利用すれば、コストも抑えつつ、業務直結で様々な生成AI活用の道が開けていきます。

情報をがっちりガード。
業務に直結する利用



（業務データ処理の例）
文章の評価や審査
対象者の抽出
条件に合致する情報の抽出

説明用資料や音声の作成
など、サービス向上を図る



各ツールの使い分けや使用時のルールの違いなど、注意しないといけない点はいくつもありますが、きちんとルール化をしたうえで安全にAI技術を使いこなして、自治体業務を効率化・高度化していきます。